

SciREX サマーキャンプ 2019 募集要項

2019年6月10日

SciREX 基盤的研究・人材育成拠点、SciREX センター

1. 趣旨

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業 (SciREX 事業)では、平成23年度に「総合拠点」(政策研究大学院大学)及び「領域開拓拠点」(東京大学、一橋大学、大阪大学/京都大学、九州大学)が設置され、客観的根拠に基づく政策形成に携わる人材や、「科学技術イノベーション政策のための科学」という新たな研究領域の発展の担い手となる人材、政策と研究をつなぐ人材を育成するとともに、関係する基盤的研究を推進するための国際的な水準の研究・人材育成を進めています。

拠点間連携の一つの取組として、各拠点の教員や学生が一同に参集し、各拠点の取組をお互いが理解し合うとともに、共通のテーマでの討論、成果の共有、異分野交流などを行う場として、毎年、「サマーキャンプ」を実施し、ネットワーク形成に取り組んでいます。本年度も以下の通り、開催することになりましたので、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

2. 学習の狙い

- 研究教育拠点の教職員、学生、SciREX 事業に関係する行政官に加え、STI 政策への興味関心を持つ拠点外の学生も含め一堂に集まり、「政策のための科学」の意義や多様性に関する認識を深めます。
- 共通のテーマでの討論を通してネットワークを構築する機会を持ちます。
- 科学技術イノベーションと社会との関わりを多面的な視点から学ぶため、多様なバックグラウンドの参加者と具体的課題を念頭に政策提言までのプロセスを体験します。優れた提言を出したグループは12月に予定されているSciREX オープンフォーラムにてご発表いただきます。

3. 全体テーマ

「課題解決のための科学技術イノベーション政策」

気候変動への適応や環境汚染、格差や不平等の拡大といった国際～個人単位まで様々な対応が求められる大きな社会的課題から、地方創生や少子化、研究の国際競争力向上といった国単位の課題、防災計画の策定などの基礎自治体単位の課題まで、科学技術イノベーション政策の貢献が求められる課題群は多岐に及びます。一方で、それぞれの課題は単に科学技術の利用や進歩だけでは解決され得ない多面性を持ち、一つの政策で一つの課題を解決できるとは限りません。今回のサマーキャンプでは、現在社会が直面している、もしくは近い将来直面するであろう社会課題へ分け入り、科学技術イノベーション政策という手段で解決しうる要素は何か、根拠を基に検討することで、多様な視点から政策を考えることの重要性を学ぶことができます。

4. 概要

日時	2019年8月26日(月)～8月28日(水)
会場	政策研究大学院大学 http://www.grips.ac.jp/en/about/access/
宿泊	ホテルアジア会館 http://www.asiacenter.or.jp/
主催	SciREX 基盤的研究・人材育成拠点、SciREX センター
幹事校	政策研究大学院大学
言語	<p>【全体セッション、グループワーク最終発表】 日本語から英語の通訳が付きます。(話者が英語を使用する場合、日本語への通訳はありません。)</p> <p>【グループワーク】 (1)日本語のみのグループ、(2)英語のグループに分かれます。 英語のグループにはサイトビジットやヒアリングの際に日本語から英語への通訳が付きます。 ※学生の方は、英語での議論の可否について登録フォームよりお選びください。グループ分けの際に参考にさせていただきます。</p>
参加費	無料(会場までの旅費、宿泊費は政策研究大学院大学が負担) ただし、交流会費、1日目・2日目の昼食費は自己負担。
交流会費	2,000円(交流会はプログラムの一環であり、全員参加です) ※交流会費は当日政策研究大学院大学でお支払いいただきます。
参加対象	現在大学に正規の学生(学部生または大学院生)として在籍している方が対象です。 <u>聴講生、科目等履修生などの非正規生は対象外</u> です。 また、一部のプログラムのみ参加はできません。3日間全てに参加可能かご確認の上ご応募ください。
募集人数	最大15名募集します。
選考について	ご応募いただいた方から順に書類選考を行います。結果はご応募いただいたから1週間以内にお知らせします。
参加申し込み方法	参加申込書に必要事項を記入し、件名を「SciREX サマーキャンプ参加希望」とした上で scirex-center@grips.ac.jp までお送りください。 なお、グループは希望を元に配置しますが、ご希望に沿えない場合があることを、予めご了解ください。 締め切り:6月26日(水)までにご応募ください。
応募書類の取り扱い	ご応募、お問い合わせ時にお知らせいただいた個人情報はSciREX サマーキャンプに関連する事務手続きや連絡以外には使用いたしません。

5. タイムテーブル

	8月26日(月)	8月27日(火)		8月28日(水)
午前	10:00-12:00 プレセッション 40分 x3科目, Q&Aを想定	朝食【アジア会館】 ホテルレストランにて		朝食【アジア会館】 ホテルレストランにて
		9:00 開始【グループ毎】 9:00-14:00 グループワーク② グループごとにサイトビジット やディスカッション ※昼食はグループごと(自己負担)		9:00-11:00 グループワーク④ 最終発表会に向けての準備
午後	12:00-13:00 受付	14:00-16:30 グループワーク ③【グループ毎】 中間発表の準備		11:00-12:30 最終発表会①【講義室L(5階)】
	13:00-14:00 開会式、オリエンテーション			12:30-13:30 昼食【弁当配布】
	事業紹介、グループ紹介、審査の観点について説明	14:00-16:30 SciREX-CRDS ワークショップ(予定) 【講義室K】	13:30-14:30 最終発表会②【講義室L(5階)】	
	14:00-14:15 休憩	16:30-18:30 中間発表会【講義室H, I, J(5階)】		14:30-15:15 講評、表彰、記念撮影等
	14:15-18:30 【グループ毎】 グループワーク① アイスブレイク、行政官ヒアリング、ブレインストーミング等			15:15 解散
	18:30-20:30 懇親会【カフェテリア(1階)】	19:00-20:00 夕食【弁当配布】		
20:30-22:00 自由時間	20:00-22:00 自由時間			

※プレセッション

各拠点大学・関係機関との共同のもと編集している「科学技術イノベーション政策の科学」のコアとなる内容から、いくつかのトピックを紹介します。自由参加ですが、奮ってご参加ください。

<トピック例>

- ・なぜイノベーションが起こるのか？
- ・STI のリスク・マネジメント、ガバナンスの課題とは？
- ・STI 政策評価の現状と課題

6. グループテーマ

テーマ 1	行政におけるデータ活用とダイバーシティ
概要	今日、行政においてデータ活用を促進する動きが広がっている。しかし、一見客観的に見えるデータであっても、実は社会の歪みをそのまま反映する傾向を持っている。特に、ジェンダーやエスニシティの観点からみれば、様々な社会問題に関わる統計データは、大きな問題を抱えている。このプロジェクトでは、行政の現場において実際のデータの作成や利用に携わる現場の職員と交流を通じて、そうした問題への解決策を模索する。
キーワード	行政、データ活用、情報技術、ダイバーシティ
使用言語	日本語

テーマ 2	データで解析する科学技術イノベーション
概要	データに基づいて特定の科学領域の現状を把握した上で、今後の展望について最終的にプロポーサル（戦略提言）を纏める、というデータドリブンの戦略立案を体験する。各種科学技術に係る様々なデータ（科研費などのファンドと、論文、特許など）を接合した分析と、それらに基づく考察・戦略立案を行う。具体的なテーマは学生が設定する。
キーワード	データ分析
使用言語	日本語

テーマ 3	SDGs 実現に向けたバイオエコノミーのための ELSI とガバナンスの課題を探る
概要	新たな産業経済の世界的トレンドとして注目されている「バイオエコノミー」では、経済成長だけでなく、気候変動・環境問題・食糧問題といった地球規模の課題を解決し、長期的に持続可能な成長が目指されている。これを実現するには、研究開発や成果の実用化にともなう健康や環境に対する安全性確保だけでなく、倫理的・法的・社会的課題についても考慮に入れたガバナンスが不可欠である。本グループでは、現在、内閣府の総合科学技術・イノベーション会議で策定中の「バイオ戦略」や経済産業省のスマートセルインダストリーに関する報告書を基礎資料として、これからのガバナンスにおける政策課題について検討する。
キーワード	バイオテクノロジー、ガバナンス、ELSI、RRI
使用言語	日本語

テーマ 4	基礎研究と臨床をつなぐトランスレーショナル・リサーチの促進
概要	医療分野の基礎研究と臨床の間には、政策的な支援により橋渡しをすることが必要な領域があり、こうしたトランスレーショナル・リサーチ (TR) の推進が図られている。日本における TR の現状と課題、今後の政策的支援の在り方などについて議論する。
キーワード	トランスレーショナル・リサーチ、橋渡し研究、ライフサイエンス、医療
使用言語	日本語

テーマ 5	Access to Medicine under Doha Declaration and TRIPS Agreement
Abstract	Protection of intellectual property right especially patents is an institutional tool to enhance research, development and innovation. However, it sometimes inhibits distribution of new products in a market. A typical case can be seen in the case of access to medicine in developing countries. What policy measure has been constructed to solve this issue? What should be done next? We will discuss this issue in a context of international rule setting.
Keyword	Access to Medicine, TRIPS Agreement, WTO, Doha Declaration
Language	English

テーマ 6	高齢社会の医療費の行方
概要	高齢化社会の進展に伴い、医療費も大幅に増加すると見込まれる。その対策として、例えば、被保険者の京済負担を変更することで医療に対する依存率や医療利用のあり方を変える、または在宅治療による医療費の抑制等が考えられる。これからの人口構造を視野に、わが国の持続可能な医療制度を検討する。
キーワード	人口減少、高齢化、医療費、医療制度、税制
使用言語	日本語

テーマ 7	Aging in Place の実現に向けた地域コミュニティ形成
概要	高齢化とともに進展する人口減少社会において、「高齢者が住み慣れた地域で安全かつ自立して快適に暮らすこと (Aging in Place)」への政策的対応が求められている。その実現にむけて、持続可能なコミュニティ形成、支援の核となる拠点形成、世代間交流の活性化等の観点から実施すべき政策を検討する。
キーワード	人口減少、高齢化、保健福祉、コミュニティ、世代間交流

使用言語	日本語
------	-----

テーマ 8	廃プラスチック問題解決のためのイノベーションと政策
概要	亀の鼻の中に廃プラスチックが刺さっている写真は世界に衝撃を与えた。廃プラスチックによる海洋資源の汚染は世界的な問題になっている。その問題を解決すべく国連を筆頭に各国が取り組んでいるものの、まだ効果的ではないと言えよう。本グループワークは、イノベーションと政策という観点から分析し、次の一手を考えていきたい。
キーワード	廃プラスチック、環境、海洋
使用言語	日本語

テーマ 9	Society5.0 時代に向けた海洋分野のイノベーション
概要	赤潮対策がおこなわれ始めたのは 1970 年代からであるが、夏季の東京湾では今なお赤潮が慢性化している。2020 年の夏季オリンピック会場ともなる東京湾エリアの赤潮対策は喫緊の課題である。内閣府が推進する Society5.0 時代に向けた新たな海洋観測プラットフォームへの期待も高まる現在、GW では観測現場の視察(乗船等)、公共データの解析と新技術導入、地域住民との協調案など東京湾の赤潮発生抑制に向けた対策の検討、それを達成すべく政策提言をおこなうことを目的とする。
キーワード	東京湾、水質、赤潮、水質総量規制
使用言語	日本語

テーマ 10	児童虐待の根絶－科学技術に何ができるか
概要	2018 年度のサマーキャンプで「児童虐待の根絶－科学技術に何ができるか」のテーマを取り上げ、政策提言が行われた。しかし、その後も悲惨な児童虐待事件は発生を続けており、今年1月には、千葉県野田市で小学4年生の女儿が、父親の虐待により落命する事件が起こっている。この 5 月 15 日には自民・公明両党は、児童虐待の防止策を強化する法案について、野党側と修正協議を急ぎ、早期成立を目指すことを表明している。悪無限に続く様相を呈するこの社会問題に対して、科学技術はどのような解法を提起し得るのかを、2018 年度に引き続き考える機会としたい。
キーワード	児童虐待、幼児虐待、児童虐待防止法、ネグレクト、虐待死、児童相談所体制強化
使用言語	日本語

以上